



ながま

青森県立大湊高等学校 東京同窓会

第39号

令和元年
6月29日
発行

Contents: P2 大湊高校史紙上散歩
P6 東京同窓会この一年

P3 近況雑感
P7 ふるさとの本紹介

P4～5 下北逍遥・大湊街歩き
P8 同期会便り

最終赤字(当期純利益が赤字)になると試算した。地域金融機関(地銀に信金・信組・農漁協・大手銀行等の地方支店含)が抱える経営課題として、人口減少がもたらす地域経済の活性化低下、低金利による貸し出し利ざやの縮小、低成長による資金需要の低迷、債券運用による収益源確保の困難化、再編への対応など山積している。金融庁は将来の収益性に着目し、本業の赤字が続く地銀には経営の抜本的な見直しを迫り、地銀の体力があるうちから早めに経営改善に動き、持続可能なビジネスモデルを描き直す方針である。こうした困難な状況の打開策として注目されているのが2015年9月に国連本部で採択されたSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)である。SDGsは当初、地球温暖化阻止のための環境保全の持続化や地方創生の構築の行動指針として脚光を浴びた。地域金融機関は第1目標「貧困をなくそう」から第17目標「パートナーシップで目標を達成しよう」の理念を鳥瞰的に捉え、各目標を実現するための169の



会長 三山 修(第20期)

「八方塞がりの地域金融機関」SDGsは助け舟になるか

日銀は4月17日に公表した金融システムレポートで、約6割の地銀が10年後の28年度に

八十周年にむけて

大湊高校は昨年度創立七十周年を迎えました。同窓会の皆様をはじめ、後援会、保護者、地域の方々、関係機関や団体などの御協力により、記念式典及び祝賀会、記念講演会や部活動強化試合など、各種記念事



校長 下河原 堅藏

ターゲットをクリアし、「地方創生に向けた地域金融の持続・推進」(PDCA(Plan・Do・Check・Action)手法を取り入れ、SDGsの考え方を経営戦略の根幹に取り組み動きがこのところ目立っている。地域金融機関は地域の産業セクターと横断的に関わることができるとの立場を活かし、地域におけるSDGs達成に取り組み企業へのアドバイスや融資などを通じて新たな事業の創造や現状の事業の維持・拡大を後押しし、企業・事業の成長と地域課題解決の推進の自律的好循環(資金の還流と再投資が持続されること)の役割を地方公共団体や市民等による活動チェック機能を受けながら担うこととなる。地域産業の育成・発展と地域に暮らす人々の豊かな生活の実現のために、持続可能な具体的な目標が重要となる。

業を無事終了することができましたことに、心から感謝とお礼を申し上げます。次の節目となる八十周年に向けて、PTA会報誌「いぶき」第90号に「平成から令和へ八十周年に向けて」と題して、生徒や教職員に対する私の考えを次のように掲載しました。「生徒の皆さんには、今後さらに発展していく大湊高校というものを考えていただき、その発展のためには、大湊高校の伝統の力や質の良さというものをはききりと自覚し、その上で生徒と教職員が心から信頼しあい活動していかなければならないということを認識してほしいと願っています。大湊高校生でありながら、大湊高校への意識を持たない生徒が私は相当いると思います。そういう意識の低さでは、学校は発展していくとは思えません。大湊高校を大事にし、大湊高校を愛し、大湊高校の伝統や質の良さを自覚して、勉強や部活動、学校行事など本気で頑張り、生徒と教職員さらには生徒相互が喜びを感じるようなところにこそ、伝統ある大湊高校を新しい時代に発展させていくものだと考えています。謙虚な誇りを持ち、生徒や教職員が八十周年に向けて新たな伝統を築いていかなければならないということに、お互い心がけなければならぬと思います。」という内容です。どんな時でも和の精神で、大湊高校の質の良さや伝統をよく理解することにより、心も豊かになつて立派な大湊高校というものが、さらにつくり出されるという考えです。そのためにも、同窓生の皆様をはじめ大湊高校に関わる全ての方が、今後揺るぎない大高愛で本校の教育活動を応援してくださいをお願い申し上げます。

語 拙 見 管

全国的に学校の統廃合が進んでおり、一番の原因は少子化による生徒数の減少で、青森県の公立高校に限れば、2022年までの予定を含め三十校位の本校・分校が消える。青森県は2005年度に学区を撤廃しているため、広範囲から生徒を集められれば統廃合は避けられるかもしれないが、ある高校が生徒数を維持出来るとしても、その分他の高校は生徒数が減少するだろうから県全体としては統廃合は避けられない。さて統廃合の噂のある大湊高校は?。受験の動機は「地元だから」「受かりそうだから」が大元だろうが、「大湊高校だから入りたいたい」という受験生が増えれば生徒数を維持し、存続の可能性はあるだろう。「だから」に値するものが現在の大湊高校にあるだろうか。大湊高校の魅力って何だろうか。■本紙「ながま」に当時の中村(郎)校長が20号から22号まで3年に亘り総合学科に付いてかなり具体的に書いておられます。これを拝読した時には大湊高校は素晴らしい高校になるだろうと思いましたが、それから約15年、期待し続けてきましたし、今後も期待し続けていきます。同窓生としては、折角同窓会という組織があるのだから、集まって飲み会をするだけではない、魅力的な大湊高校作り具体的に何か寄与出来ないものだろうか、とも思う。やはり廃校は避けたい。■読みたい本、聴きたい音楽、見たい映画、行ってみたい所、やってみたい事等々沢山あり、仕事を辞めたら思う存分と思っていきたいもの、退職後数年経つのになかなか捗らない。確実な体力の衰え、持続力低下を痛感している。誰しもが通る道なのでしょうが、これが年を取るといつことなのでしょう。(Y.T)

歩き続けた70年 さらにその先へ

大湊高等学校は昨年創立70周年を迎えた。記念誌を道標に70年前を振り出しに今を越え未来へと歩む大湊高校史紙上散歩。

創立

- 昭和23年(1948) 5月1日：大湊高等学校定時制課程普通科として開校認可される。普通科は大湊小学校、家政科は大湊公民館を借りて分散授業(昼間定時制)を行う。
- 昭和23年(1948) 5月16日：大湊高等学校**脇野沢分校**設置される。
- 昭和23年(1948) 6月10日：**本校開校式**
- 昭和23年(1948) 6月12日：大湊中学校の4教室を校舎として使用し、授業を開始する。本校の他、大湊小学校に1教室、及び公民館講堂を借用して、夜間普通科一部、夜間工業及び家庭の各課程の授業を開始する。
- 昭和23年(1948)10月7日：大湊町立大湊高等学校定時制課程**川内分校開校式**を行う。

昭和23年は学制改革で新制高等学校が発足した年であり、大高1期生は旧制中学校5年を終え、高校3年へ編入し、1年間だけ高校生だった。開校当時昭和24年は普通科の他に工業科、水産科、家政科を募集していたが、これは生徒数確保のための苦肉の策だったらしく、昭和25年に県立に移管されると普通科だけになった。

脇野沢・川内分校

脇野沢分校は本校の県立移管に伴い県立となった。昭和63年3月31日、最後の卒業生1名を送り出し廃校となった。創立30周年記念誌「夜道」と閉校記念誌「海鳴」を発行している。

川内分校は昭和44年2月独立校舎が完成し、小～中学校併設状態を解消する。翌45年、県に移管され正式に県立となった。昭和51年には全日制となり、分校として設置後30年目の53年には青森県立川内高等学校として独立する。さらに30年後の平成30年には統合により再度分校化し大湊高校川内校舎となる。現在すでに募集を停止、令和3年の閉校が決定している。



脇野沢分校閉校記念誌



定時制課程閉校記念誌
定時制川内分校30年史

昭和23年、大湊町立大湊高等学校定時制課程普通科は誕生した。しかし沿革に依れば普通科と同時に家政科、工業科も始まったようだ。翌年校舎ができるまでは大湊小、公民館、大湊中を間借りして開校式前から授業を行った。1日3教科百分授業。机も椅子も黒板も借り物だった。半月後か2か月後(創立五十年史・年表では5月、概略では7月)には脇野沢分校、半年後には川内分校が開校する。この手回しの良さは両町村からの要請と、豊漁での好景気による融資を見込んでのことだったらしい。生徒数を増やし、県立移管実現を目指していた。

校章



6期生まで使われた創立当時の校章。バッジには芦崎と釜臥だろうか、海・山がデザインされていた。

- 昭和24年(1949)11月1日：大湊高等学校**全日制課程認可**される
- 昭和24年(1949)6月6日：帽章、バッジ入荷する。
- 昭和24年(1949)8月10日：木造2階建て**新校舎落成**。引っ越しする。



大湊高校校舎は警備庁庁舎であった建物が昭和21年に焼失した跡地にその土台を利用して建設された。昭和48年3月現校舎が完成するまで使われた。工費450万円。

- 昭和25年(1950)1月1日：県立移管が認可され、**青森県立大湊高等学校**となる。普通科定時制課程設置される。

(大湊高校は普通科全日制、普通科定時制併設の県立高校となった。定時制は昭和60年3月に最後の卒業生6名を送り出して廃止となる。)

- 昭和26年(1950)1月3日：**校歌制定**～宇田青年会館に於いて発表会を行う。



定時制閉校記念誌

- 昭和28年(1953)9月16日：1年生の渡辺正弘君、水泳選手として国民体育大会参加のため出発する。
(50周年記念誌のまま。渡辺さんは28年3月卒。何年の大会に出たのだろうか。)



大湊高校初の国体選手

- 昭和29年(1954)4月1日：木材工芸科設置。
(木材工芸科は昭和38年廃止となる。)
- 昭和33年(1958)父兄から楽器が寄贈されたことを契機に**プラスバンド部**発足。
- 昭和37年(1962)4月1日：家政科設置。
(家政科は平成5年廃止となる。)
- 昭和42年(1967)9月13日：第1回耐久遠足を行う。
(出発夜11時、帰着朝10時。コースは男子が宿野部小学校往復50km、女子が川内小学校往復35km)
(昭和41年4月に赴任したベルリン・オリンピック競歩選手だった奈良岡良二校長の提唱で始まった耐久遠足は現在まで続く大高の伝統行事となった。因みに奈良岡校長はオリンピック時、東奥日報に「ベルリン便り」を連載していた。)
- 昭和43年(1968)7月26日付け「学校だより」
夏休みの諸注意として九項目あり、その七番目「ネプタ祭りの参加は認めておりません」
(42年までは参加出来たはずなのに・・・)

同窓会

- 昭和25年(1950)6月10日：同窓会結成(会員27名)
- 昭和25年(1950)6月25日：同窓会会報第1号発行。ガリ版刷り。
- 昭和30年(1955)：有志による**在京同窓会結成**。



第1回総会は12月5日、飯田橋の県庁東京事務所で行われ40数名出席。「出前のカレーライスをほおぼりながら…」(信天翁より)アルコール抜きの会合だった。2回目は翌年6月5日、木村長吾氏邸で開催、この時、A5判54ページにも及ぶガリ版刷りの会報「信天翁」が発行された。その後の活動は不明。

- 昭和35年(1960)：同窓会名簿発行。ガリ版刷りで11期生まで掲載。
- 昭和41年(1966)12月11日：大湊高校同窓会東京支部結成。
- 昭和56年(1981)3月1日：工藤忠孝会長によって「やまびこ」と命名された同窓会会報が復刊された。
- 昭和49年(1974)12月2日：九段会館にて**第1回「励ます会」開催**。

「励ます会」は「卒業生を囲む会」「新卒業生を励ます会」「卒者激励会」と名前を変えながら昭和49年以降毎年開催されている。53年には120名位が参加したという。当初本部同窓会主催だったが、55～6年から地元は地元でやることになり、その頃から東京での会は東京支部に引き継がれ東京支部の年間最大行事「総会・懇親会・新卒者激励会」となって継続され、毎年6月最終土曜日に開催されている。地元の会も毎年8月15日に「総会・親睦会・新卒者激励会」となって継続されている。

昭和48年(1973) 3月25日:鉄筋コンクリート3階建ての
新(現)校舎完成
(その後昭和53年3月野球場完成、8月プール完成、58年12月生徒会館「青雲寮」完成-翌59年1月食堂営業開始、平成8年柔剣道場「連恵館」完成・・・)

平成元年(1989) 9月30日:秋季高校野球青森大会決勝で弘前南を13-4で下し県大会初優勝。下北に40年ぶりに優勝旗を齎す。

平成10年(1998) 10月28日:**創立50周年**記念式典挙行、記念誌「息吹あらたに」発行

平成14年(2002) 4月1日:**総合学科設置**。(大湊中学校と連携型中高一貫教育開始。)
(総合学科設置に伴い普通科の募集を停止。平成16年3月をもって普通科廃止)

平成14年(2002) 4月:**新制服採用**

平成20年(2008) 10月11日:
創立**60周年**記念式典挙行。記念誌「夢はぐくまん」発行。10月22日:「芸術教室」に寺内タケシ&ブルー・ジーンズ登場。
(エレキギター=不良と言われていた世代からすると隔世の感有り。)



演劇、狂言、落語、音楽、器楽、古典芸能などを鑑賞する企画が演劇教室、音楽教室、芸術鑑賞教室等々名前を変えながら昭和40年代から続けられている。昭和末期以後は「芸術劇場」「芸術教室」と称され現在も続けられている。

平成30年(2018) 10月6日:**創立70周年**記念式典挙行。記念誌「英知の瞳光あり」発行。

平成31年(2019) 4月1日:創立80周年、90周年・・・へ向けスタート。



昭和56年(1981) 6月:東京支部機関紙「なかま」創刊。
平成3年(1991):2回目の同窓会会員名簿発行。
平成9年(1997):3回目の同窓会会員名簿発行。
平成8年度卒業第48期生まで掲載。

平成20年(2008) 6月:東京支部を「東京同窓会」に名称変更した。



「なかま」創刊号
「なかま」は平成27年に東奥日報の記事になり、大湊駅にも掲示され、駅でも配布されるようになった。



大高祭前夜祭ねぶた運行

昭和41年(1966) 9月30日:第1回大高祭前夜祭ネブタ。夕方本校出発、灯りの入ったネブタが大湊駅まで運行された。



昭和41年、校長でも教頭でもなく、生徒会の発案で大高祭アピールの為に始められたネブタである。当初は材料を提供してくれた大平の石巻製材所までの運行予定だったが、不慣れな運行のため時間が掛かり過ぎ駅で折り返した。翌年からは人形ネブタも製作され、各学年に定時制が加わり4台運行されたりと規模が拡大していった。人形は平成20年まで製作されたようであるが、その後は扇だけの運行となっている。昭和天皇がご病気のため製作したけれども運行しなかった年を除き、毎年運行されている。1年遅く始まった耐久遠足と共に54年の歴史を持つ大湊高校の伝統行事であり、大湊の名物でもある。



中学卒業時の佐々木十八名のその後を見ると、男十二名のうち六名が病死、三名が大湊を離れ、現在大湊に残っている人は三名だけ。女六名は、全員が佐々木姓以外の人と結婚して苗字が変わり、二名他界、二名が県外、地元二名だけとなっている。六十数年の時代の移り変わりに感慨深いものがある。

★
大湊特有(?)の苗字が少なくなつて、全国的に共通な苗字が大勢を占めている。なぜ、こうなったのだろうか?佐々木も祐川も地元定着者が少なくなつて、みな外に出てしまったのだろうか?分からない。

ところが今年の名簿、卒業生百八十四名のうち、佐々木が二名、柳谷一名、祐川も新松もゼロである。一番多いのが工藤六名、田中五名、佐藤・菊池・中村・川端が四名となっている。

「川守に石を投げれば佐々木に当たる」と言われたほど川守には佐々木姓が多く、上町では祐川、宇田では柳谷、城が沢では新松と、それぞれ町内毎に特徴があった。手元にある昭和二十六年春の大湊中学卒業時の名簿を見ると、六クラス二百五十五名の卒業生、多い順に佐々木十八名、祐川十四名、柳谷十二名、高橋八名、工藤六名となっている。

★
翌日の卒業式、毎年のことながら、厳粛にして感動的な式で、最後、式場を後にする卒業生の涙に、こちらも貰い泣きしてしまつた。

「祐川」という苗字の人が一人もいないではないか。昔々、われわれの時代には、「佐々木、祐川、馬のクソ」と、苗字の多い仲間は冷やかされたものである。(注・馬のクソ・・・昔は、荷物運搬に馬車(冬は馬ソリ)が使われ、道路に馬糞がいつも散見されていた。「馬のクソ」とは、どこにでもあるものか。)

また、町内ごとに多い苗字が決まっていた。

「川守に石を投げれば佐々木に当たる」と言われたほど川守には佐々木姓が多く、上町では祐川、宇田では柳谷、城が沢では新松と、それぞれ町内毎に特徴があった。手元にある昭和二十六年春の大湊中学卒業時の名簿を見ると、六クラス二百五十五名の卒業生、多い順に佐々木十八名、祐川十四名、柳谷十二名、高橋八名、工藤六名となっている。

★
母校の卒業式が、毎年三月一日に行われ、その前日に、「同窓会入会式」が、卒業式用に紅白の幕が張られた講堂で行われる。ほぼ毎年、この入会式に東京同窓会を代表して参加し、卒業生に対し、同窓会への入会歓迎と激励の挨拶をして来た。今年もお邪魔し、百八十四名の卒業生の皆さんにお話する機会を頂いた。

★
今回は、進学、就職、それぞれの道に向かって挑戦したが、残念ながら希望どおりにいかなかった人を念頭に置いて、「十八歳で人生が決まる訳ではない」と題して、自分が十代の時に、経済的な事情で夜間部へ進学せざるを得なかった経験などのお話をした。

近況雑感
大湊今昔苗字考
顧問 佐々木彦藏(第7期)



(令和元年五月三十一日記)

平成時代へ 大湊街歩き

下北埠頭から三本松方面

大湊興行船が建設した大湊岸壁(下北埠頭)は大正12年(1923)に完成し、内地・北海道間の中継港としての役割を担った。倉庫、給水設備、専用鉄道線を備えていた。昭和2年(1927)には製氷や鮮魚の冷蔵をすべく大湊冷蔵船が設立された。日本鋼管大湊工場は大湊線下北駅の西側18万坪の敷地に砂鉄の精錬工場として昭和10年に設立されたが、昭和18年以降は海軍に利用され、昭和20年には閉鎖された。その後は廃墟となり「こうもり屋敷」と呼ばれていた。

が9月25日開通、新道(現国間写真館、高橋商店、田中商の保持のために写真撮影が。これらの古い絵葉書や写



壁岸港築湊大 (行發店商井村) (可許部港湊大) (二ノ其)



(行發店商井村) (可許部港湊大) (一ノ其) 壁岸港築湊大



昭和33~34年頃撮影

日本鋼管の廃墟。もうこの姿を留めていない。白鳥のいる手前辺りが現在「克雪ドーム」。



心望をルテホリよ橋識 港湊大



(済可許御部港湊大)

り通前驛町湊



この建物はいつ頃に建てたのだろうか。

原松本三湊大



(行發店商中田四) ルテホ湊大 (可許部港湊大)

左側に
御待合所(右書き)・ユニオンビル(縦看板)
工藤食堂(入口上・右書き)
高橋寫真(壁面看板・左書き)
運送(壁面看板・右書き)
右側に
サッポロビール(縦看板)・旅館(白抜き・縦書き)
福島タクシー(袖看板・右書き)
ユニオンビル(縦看板)・青793(車のナンバー)
福島タクシー(ナンバーの左)
などの文字が読み取れる。



景ノ望ヲ館旅地菊リヨ橋棧湊大 (行發店商橋湊大) 灣湊大



景ノ據裏館旅地菊湊大

大正10年(1921)9月25日大湊線が開通した。東奥日報は「十余年来、待ちに待ちたる大湊鉄道開通式は、二十五日の吉日を以て下北郡三本松の仮停車場付近において開催せられた」とだけ報じたが、花馬車の運行や小学生の旅行列などを行い、田名部、大湊両町村あげて盛大に祝ったという。仮停車場とはこの辺りだろうか。



松本三湊大 (奥陸)



大平・小荒川橋の袂、海側にあるのは瀨波屋の建物である。宇曾利湖畔にあった「恐山ホテル」は、ここに事務所を置いて大正から昭和にかけて営業していた。瀨波屋の建物はやがて高野商店になり、現在は民家になっている。



恐山ホテル

通前所務事ルテホ山恐山平大 港湊大



昭和30~40年代撮影

三本松から 大平方面

大荒川橋横にあった民家の井戸。小屋掛けの立派なものだったが、衛生上、管理上の問題で家の裏に移設された。橋の向こうにネプタが見えます。県道脇の斜めの空地には毎日のように紙芝居屋が来ていた。

大正時代から 下北逍遙 絵葉書と写真



大湊要港部庁舎は大正12年(1923)に完成した。昭和21年(1946)に焼失し、昭和24年その跡地に土台を利用して大湊高校が建てられた。



要港部会議所(水交社)は、大正5年(1915)士官の集会所・社交場として完成した。戦後海自大湊地方隊の発足以後は総監部や通信隊の庁舎として使用されたが、昭和56年(1981)以後は展示資料館「北洋館」となっている。日本建築学会から大正昭和期の各建築に選出された。現在煙突はない。

宇田から川守・上町方面



景の通舎官部港要湊大

国道338号宇田・櫛スケカワ石油付あたりから川守方面か？中央の2本の電柱付あたり丹内坂の上。



景の通本田宇 港湊大

昭和十四年の絵葉書、下通り(現市道)関先生宅左手前の店舗から川守方面。右側支柱付電柱現在も同じ位置の向さ。この大きな家の東側隣が(有)大正屋さん。



平成18年(2006)撮影



平成30年(2018)撮影

「安渡の湧水」横の坂途中にあった大湊通信診療所。建築年、解体年共に不明。2013年撮影のGoogle Mapに写っているため、解体はそれ以後。現在も電柱に接続箱がそのまま残っている。



平成30年11月10日午前7時頃撮影

野村和三郎・美和子が経営する旅館・割烹「まるい荘」は大正2年(12年説も有り)に函館の業者が設計・施工したという。大湊の歴史を物語る建築物であったが、平成30年に解体された。11月10日朝には養生シートが残っていたが、午後2時頃には取り払われ、作業員が整地していた。

大正10年、大湊は大きく変わった。大湊ホテルが開業し、大湊線道338号が開通となったが、この頃より昭和にかけて村井商店、出店等が絵葉書を発行している。カメラが高額だったことや、軍事機密制限されたこともあり、絵葉書は当時を知る上での貴重な資料であり、真を見ながら、下北埠頭から旧大湊高校、大正から平成の大湊を

大湊駅前



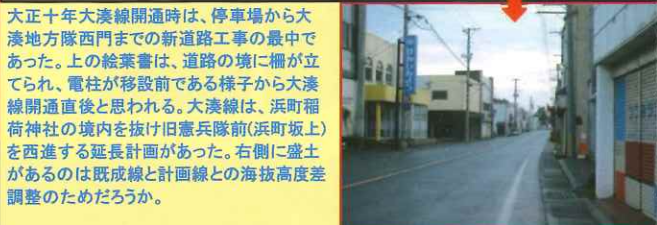
平成18年(2006)の大湊駅前

この絵葉書は鉄道画家として名高い富田利吉郎画伯が1978年に描いた「大湊駅 大正10年9月25日開業時の駅舎」。



(影撮館真寫間出)

り通場車停湊大



大正10年大湊線開通時は、停車場から大湊地方隊西門までの新道路工事の最中であつた。上の絵葉書は、道路の境に柵が立てられ、電柱が移設前である様子から大湊線開通直後と思われる。大湊線は、浜町稲荷神社の境内を抜け旧憲兵隊前(浜町坂上)を西進する延長計画があつた。右側に盛土があるのは既成線と計画線との海拔高度差調整のためだろうか。

浜町・大湊棧橋界隈



(済可許御部港要湊大) り通町濱町湊大

大湊棧橋(菊池棧橋)界隈の繁華街であつた。明治6年への定期航路(明治6年由野辺地(明治15年)、沢方面定期航路(明治15年)開行)が立ち並び、銀行が立ち並びを並べ...。菊池棧橋のであつた菊池旅館は昭和10年に大火で焼失した。



菊池棧橋から上町方面 左側に今薬局、右側に村井書店等あり。

通称「新谷分店」(現トラス)方面。中央の大きな建物は菊池旅館。

景之 (行發口日本板師真影) VIEW OF STREET ON

東京同窓会この一年

(5月1日より年号が代わりましたので西暦上「丙表示とします。)

- 18年7月21日
- * 理事会・市ヶ谷「だがわ」
- * 出席10名
- * 総会総括(新会場での開催であったが、設備・料理等概ね好評。次年度への申し送り事項・検討事項等。会費納入者及び総会出席者の挨拶状・写真送付等)
- * 新卒者・激励会参加促進対策
- * 納涼会を含む行事検討



- 18年8月25日
- * 上野散策(明治時代の建物を巡る)
- * 案内・逢坂誠郎
- (31期)東京シテイガイド検定合格者
- 東京の外気温度が36度の中、上野公園周辺の明治時代に建てられた建築物をめぐるツアーを行いました。コースは次の通り。
- J R 上野・公園口集合↓西郷隆盛像↓彰義隊の墓↓清水観音堂↓国立西洋美術館↓国立科学博物館↓旧本坊表門・砲弾の跡↓東京国立博物館↓黒田記念館↓国際子ども図書館↓寛永寺↓水月ホテル・隅外荘精養軒・反省会

西郷像見学、上野戦争時の彰義隊の墓を参拝後、清水観音堂で歌川広重が描いた「上野山内のまつ」を見たり、ル・コルビュジエの建築作品である国立西洋美術館を外観だけ見学したり、旧寛永寺表門の上野戦争で開いた穴をチェックいたしました。

最後は精養軒の屋上ビアガーデンで反省会です。日中かいた汗の分までビールを飲みました。(文逢坂)



- 18年9月30日
- * 高窓連バレーキュー大会
- *** 台風のため中止 ***
- 18年11月10日
- * 秋の北鎌倉散策
- * 案内・逢坂誠郎
- (31期)東京シテイガイド検定合格者
- 紅葉にはちょうど早い時期でしたが北鎌倉を散策しました。今回は九名の方に参加して頂きました。コースは次の通り。
- J R 北鎌倉駅↓松岡山東慶寺↓亀ヶ谷坂切通↓薬王院↓横須賀線ガード↓底抜けの井↓海蔵寺↓十六井戸↓英勝寺↓寿福寺↓津久井(食事)
- 昼過ぎ十三時に集合、駆け込み寺で有名な東慶寺を見学。その後、鎌倉七口のひとつである亀ヶ谷坂切通を通り扇ガ谷へ入りました。
- 扇ガ谷では、海蔵寺の洞窟の中にある十六井戸を見学し、太田道灌ゆかりの境内には、創建当時の建物が見え、主要な建物である山門、仏殿、鐘楼、祠堂、祠堂門(唐門)は、全て重要文化財に指定されていて見所が多いです。そして、北条政子と源実朝が眠る寿福寺を巡りました。

反省会は鎌倉の隠れ家的存在で大好きな「津久井」で美味しくお好み焼きと焼きそばを頂き楽しいひと時でした。(文逢坂)



寿福寺 桂敷きの参道

- 18年12月15日
- * 理事会・役員有志忘年会
- * 四ツ谷・U.F.I銀行施設「番町分館」
- * 参加10名
- * 新年会の日程・会場決定



- 19年1月23日
- * 役員有志新年会
- * 音楽ヒヤッラザライオン銀座店
- * 参加7名



- 19年3月9日
- * 「王子」界隈散策
- * 案内・逢坂誠郎
- (31期)東京シテイガイド検定合格者

当日は17度と暖く歩くと汗ばむほどでした。今回の企画には十三名の方が参加くださいました。コースは次の通り。

王子駅・中央口集合↓旧古川庭園↓里塚↓青淵文庫・晩香廬↓飛鳥山公園・飛鳥山博物館↓紙の資料館↓王子神社↓王子稲荷↓よし乃・食事

お昼過ぎの十三時に王子駅に集合。コミュニティバスで旧古川庭園まで移動。バラが咲いていない時期でしたので園内は見学者がまばらだったこともあり静かな庭園をゆつたり見学できました。庭園見学後は徒歩で飛鳥山を目指します。途中日本橋から二つ目となる里塚を発見。今でも旧街道の両脇に残っています。

飛鳥山では、日本資本主義の父とも言われる渋沢栄一の旧邸として大正期に建てられ重要文化財に指定されている晩香廬と青淵文庫を見学し、飛鳥山博物館では縄文時代から現代に至る歴史に触れることができました。散策の締めくくりとして、王子神社と王子稲荷を参拝。最後はお好み焼き屋「よし乃」で反省会をし、解散となりました。(文逢坂)



洋館を背に集合記念撮影

- 19年4月7日
- * 東京下町県人会主催・花見の会
- * 江東区・東京都立猿江恩賜公園
- * 役員・有志15名参加



- 19年5月11日
- * 理事会・市ヶ谷「だがわ」
- * 出席9名
- * 総会案内状発送業務



案内状発送後の一息

- 19年6月8日
- * 理事会・市ヶ谷「だがわ」
- * 出席10名
- * 総会の最終打合せ。総会次第、議案、当日の役割分担、配布物等用意するもの及び担当の確認等
- * 新卒者・来賓・本部同窓会からの出席者確認
- * 役員改選
- * 会則部改正
- 19年6月29日
- * 令和元年度定期総会
- * 新卒者激励会・懇親会
- * グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」
- * 機関紙「なま」39号発行

ふるさとの本紹介 「つそりの風」第4号



北奥の地に移転して辛酸を舐めた旧会津藩士の子二人のそれぞれの体験をまとめた小冊子を広く読んでいただくため、編集・執筆したもの(「凡例」より)で、全二章から成り、第一章は、「斗南藩の歴史にはじめて接する人でも容易に全体像を把握できるように配慮(「凡例」より)したという「会津・斗南藩の概要」。

第二章「苦難の記録」は、①旧会津藩士の子女・鈴木光子が「会津戦争の惨劇や斗南への移転、北奥における苦難の生活、会津への帰還、十七歳になった明治十年に鈴木家を継ぐおよそ十年間の体験を生々しく書き綴った記録(はじめに)より」である小冊子「光子」と、②会津人神谷きさをが「会津から斗南へ移住した際の状況や三戸郡八幡村での生活、開牧社(後の広沢牧場)での思い出などを口述したものを子孫が筆記し、整理した「同」小冊子」思い出に「会津から斗南へ」の二冊に丁寧な注釈・解説を加え編集・掲載したものである。「ある明治人の記録(柴五郎)同様重要な史料と思われまます」。

著者は東通村装部(ホロベ)出身、田名部高校から県立高等看護学院を経て看護師になり、むつ総合病院へ勤務、現在は退職。
(以下は文芸社の書籍詳細情報より転載)
母の思いを引き継ぎ、看護師になった著者は、結婚して子どもも生まれ、忙しくも幸せな日々を送っていた。そんな日々を残酷な病魔が襲う。手術は成功したものの、歩行困難となった著者。家族や仲間からの支えによって、苦勞しながらも職場に復帰するが……。看護師ならではの精密な記録が冴える。闘病と仕事の二つを柱に、中途障碍者の復職や社会参加について考えさせられる、実録エッセイ。
四六版・138ページ 千円(税別)
発行・文芸社

むつ市の有形文化財であり、17世紀に製作、県内最古といわれる田名部・常念寺に伝わる「源平合戦図屏風」を、平家物語の説話と共に解説した巻頭記事、音楽教育概観から下北の郷土音楽までを取り上げた学術論文「音楽教育と郷土音楽」、斗南會津会相談役・目時紀朗氏の「戊辰150年に思う」、小中学生向けに今後シリーズ化するという「下北を築いた人々①彫刻家古藤正雄」、他に「斗南藩の立藩から廃藩までの足跡(1)」「南部盛岡藩の海防策(1)」等々、前号より10ページ増やして読み応えのある、面白くもあり難かしくもある号になっている。

瀬川威氏の紙上ギャラリー「うそりのまにまに」も相変わらず素晴らしい写真と解説で知らない下北を見せてくれている。

A4版・一〇六ページ 千円(税込)
発行・問い合わせ先
うそりの風の会 事務局
〒035-0076
青森県むつ市旭町10番3号 工藤和彦方
電話&FAX 0175-34-9786

文化五年(一八〇八)の第一次会津藩北方警備から、②第二次会津藩北方警備、③会津戦争、④函館戦争、⑤斗南藩、⑥明治時代、⑦白虎隊、⑧屯田兵、⑨石川啄木・有島武郎の周辺、⑩大正・昭和へ渡った会津藩士やその子孫まで藩士ではないが藩士と行動を共にした土方歳三まで含む五十五人を取り上げ、「北海道の大地で凄まじく、美しく生きた会津人群像を列伝風にまとめた(「刊行にあたって」より)」という一冊である。各人物には生没年、経歴等を付し、エピソードを交えて解説しており、それぞれが短めな伝記物語であるが、五十五編を通観すれば会津藩士歴史物語という歴史書にも思えてくる。

A5版・290ページ 三千五百円(税別)
発行・歴史春秋出版

長距離飛行研究用航空機Ⅱ航研機は1938年(昭和13年)に1万1651磅の長距離飛行世界記録を樹立した。この設計者の一人が五戸町出身の木村秀政、主操縦士が弘前市出身の藤田雄蔵、機体製作技師長を務めたのが、大湊町(現むつ市)出身の工藤富治であった。県出身者三人の役割にも触れながら「航研機」の開発の歴史なども三沢航空科学館の大柳繁造館長がまとめた一冊。
B6版・250ページ 千円(税込)
発行・青森県航空協会
問い合わせ先・三沢航空科学館
電話 0176507777

昭和27年以來というから、かれこれ70年近く会津・斗南藩の調査・研究してきた葛西先生の名著。「会津戦争を生き延び、斗南藩再興後」

「北奥の地に移転して辛酸を舐めた旧会津藩士の子二人のそれぞれの体験をまとめた小冊子を広く読んでいただくため、編集・執筆したもの(「凡例」より)で、全二章から成り、第一章は、「斗南藩の歴史にはじめて接する人でも容易に全体像を把握できるように配慮(「凡例」より)したという「会津・斗南藩の概要」。

「光子」の中に明治5年の青森ねぶたの生の様子が6行程記載されており、同様の記録は初めてのはずなので、敢てここに書き加えておきます。

「紅の翼」の「航研機」ものがたりは、大湊町出身の工藤富治の設計した長距離飛行研究用航空機Ⅱ航研機が、1938年(昭和13年)に1万1651磅の長距離飛行世界記録を樹立した。この設計者の一人が五戸町出身の木村秀政、主操縦士が弘前市出身の藤田雄蔵、機体製作技師長を務めたのが、大湊町(現むつ市)出身の工藤富治であった。県出身者三人の役割にも触れながら「航研機」の開発の歴史なども三沢航空科学館の大柳繁造館長がまとめた一冊。

「会津藩落城・流転」
—会津から斗南に移った少女に寄せて—
葛西 富夫 著

「北奥の地に移転して辛酸を舐めた旧会津藩士の子二人のそれぞれの体験をまとめた小冊子を広く読んでいただくため、編集・執筆したもの(「凡例」より)で、全二章から成り、第一章は、「斗南藩の歴史にはじめて接する人でも容易に全体像を把握できるように配慮(「凡例」より)したという「会津・斗南藩の概要」。

「車椅子の看護師がなればわたし」
働けることの喜び、そして私の生きる道
川上 美代 著

「紅の翼」の「航研機」ものがたりは、大湊町出身の工藤富治の設計した長距離飛行研究用航空機Ⅱ航研機が、1938年(昭和13年)に1万1651磅の長距離飛行世界記録を樹立した。この設計者の一人が五戸町出身の木村秀政、主操縦士が弘前市出身の藤田雄蔵、機体製作技師長を務めたのが、大湊町(現むつ市)出身の工藤富治であった。県出身者三人の役割にも触れながら「航研機」の開発の歴史なども三沢航空科学館の大柳繁造館長がまとめた一冊。

カウンター
飲み放題
おしゃべり
カラオケ
各種宴会承ります

青森県信用組合 大湊支店
大湊駅前
TEL 0175-24-1791

酒 しゅらん 蘭

大湊駅前
TEL 0175-24-1791

寿司職人の dining 居酒屋
全ての宴会にお寿司 or のり巻が付きます

宴会 料理・飲み放題 2時間 4,000円〜
女子会 料理・飲み放題 3時間 3,000円〜 (+1,000円で1時間延長)

大湊高校 OB 限定割引あり (自己申告)
むつ市大湊新町 3-6
TEL 0175-24-1791

懐かしいふるさと 大湊新町でタイムスリップしませんか?
のみ放題プラン お一人様 4,000円から

炭火焼き鳥・牛舌焼・味噌貝焼き
刺身・馬刺し・焼き魚・季節鍋物
もつ煮込み・キムチ他

地酒・お食事・そば・うどん
大湊駅 徒歩三分三善通り入口

炭火焼の店 居酒屋 伝ちゃん
第2木曜日定休日
むつ市大湊新町 20-31
TEL・FAX 24-3729

姉妹店 スナック ぼたん
居酒屋メニューで楽しい宴会ができる店
お一人でもお気軽においでください

むつ市大湊新町 20-1
TEL 24-2681

商工会議所・観光協会・自衛隊協力会・警察署友の会・大湊料理飲食店組合 会員の店

同期会便り

「安堵会」

二〇一八年春の集い

富澤千里(第16期)



故郷の同期生が作成した「しおり」裏表紙の写真は「航空隊前から 宇首利川」

毎年四月の第1土曜日開催が定着してきた十六期生の関東地区在住者の同期会「安堵会」を、六日、桜花満開のなか上野御徒町の「吉池食堂」で開いた。

今年にはむつからの参加者はいなかったものの、十年ぶりの参加者や仙台からの参加者を含め、十七名が集まった。孫の世話や家族の介護や介助をやり繰りしたり、或いは自身の体調と折り合いをつけたりと、一年ぶりに会うこの日をみな楽しみに待っていた。

いつものように話題は故郷の思い出話、同期生の最新情報、そして健康状況や趣味の話、などなど。下北の四季を撮り続けている同期生が今年も「しおり」(同期生五十余名の近況報告集)の表紙と、話のタネにと故郷の写真をアルバムにして送ってくれた。

むつに今は家族や親類縁者もいなくなり、帰省することがなくなつたが、同期会でもあればそれを機に度帰つてみたいとか、またむつの同期生から、仙台あたりで開いてくれると参加しやすい、との声もあり、後期高齢者となる来年もしくは再来年あたりには別のかたちでの「安堵会」を考えてみようということになった。

2018 あしざき会 夏の集い

畑中皓二(第5期)



平成最後のあしざき会を八月十七日、プラザホテルむつで行いました。当初毎回二十名の参加目標でしたが、かさなる年齢には勝てず、参加者十四名でした。

特に、何時もこの会の中心で、毎回必ず参加していた柳谷雄君が逝ってしまった。

そして東京あしざき会を纏めていた走上謙子さんも、長い間御主人の介護を務め上げ見送つたばかりなのに後を追うように五月二日に逝つてしまいました。

この会員の生存者が少なくなつていきますが、今年も参加者二十名を目標に、郷里むつで令和元年夏の集い(八月十七日、プラザホテルむつ)を開催予定です。むつで会いましょう。

計報

中嶋皓夫さん(第11期)



長い間東京同窓会の理事、監事を務めておられた中嶋皓夫さんが昨年お亡くなりになりました。齊藤藤間から寄せられたお悔みの言葉で故人を偲びつご冥福をお祈り申し上げます。

中嶋さんへのお悔やみ 齊藤忠志

中嶋さんといえば、平成25年(2013年)の茅ヶ崎での東京同窓会の「納涼会」を思い出す。6月頃「今年の納涼会は茅ヶ崎でやろう。茅ヶ崎に住む中嶋さんが企画してくれないか」とは湘南のご真ん中だし、開高健記念館もあつて魅力的だよ」と連絡した。2、3回の電話打ち合わせの後、8月24日に実施した。シラス料理で有名な網元の店を打ち上げ、音楽の先生だった中嶋さんの「ピアノ(鍵盤「ミニ」)の伴奏で「真白き富士の嶺」などを皆で合唱した。楽しくおいしい納涼会だった。

理事会後の団樂になるとアルコールに弱い中嶋さんはいつも「舟を漕いでいた」姿も忘れられない。少し早い感があるけど、どうぞ大舟に乗ってゆっくり休んで下さい。



開高健記念館前



いつもの中嶋さん 平成29年新年会

編集後記

28号から12年間編集を担当してきましたが、今回の39号を最後に御役御免と相成りました。今まで御覧いただいた多数の皆様様に厚く御礼申し上げます。また35号を取り上げ、記事に下さいました東奥日報社様、毎号配布に御協力賜り、拡大版まで作成して駅に掲示して下さいました大湊駅の皆様にも厚く感謝いたします。ありがとうございました。■最終に満足いく紙面は一度も作ることは出来ませんでした。■能力の限界と納得せざるを得ません。■六年前に地域の歴史、自然、文化を目に見える形で...という観点で始めた「下北道遥」や、「大湊のまつりあれこれ」に同窓会以外の方々から過分な評価を賜りましたことは誇りに思っております。



発行 青森県立大湊高等学校
東京同窓会

編集 立花善裕(19期)

題字デザイン 畑中皓二(5期)

事務局 T1130034

東京都文京区湯島

3-19-7-403

近原徳芳(26期)

TEL 03-3836-3766

印刷 N's Digital Factory

むつの便りは「やなぎや」のお菓子で...



- 田名部ばやし
- おおみなと
- フライボール
- 寒立馬サブレ
- 他 銘菓各種



緑町本店 むつ市緑町17-58
T.0175-28-2880
金谷店 むつ市金谷2-7-11
T.0175-23-6720
URL: http://o-yanagiya.jp



プラザ ホテル むつ

THE PLAZA HOTEL MUTSU



〒035-0061 青森県むつ市下北町2-46(JR下北駅前)

TEL 0175-23-7111(代)

FAX 0175-23-7770

クラス会・同期会・親戚会等に

落ち着いたある和風ダイニングと安らぎのある客室で.....

JR下北駅より2分